

本部事業報告

① 法人関連会議開催状況

(1) 理事会の開催

- 第1回理事会 平成27年4月11日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①報告事項
②組織規程改正の件
- 第2回理事会 平成27年5月23日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①びわこみみの里運営規程改正の件
- 第3回理事会 平成27年5月23日(金) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①平成26年度事業報告の件
②平成26年度決算報告の件
- 第4回理事会 平成27年9月28日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①湖北みみの里(仮称)設立準備室の設置の件
②評議員交代の件
③人事に関する件
- 第5回理事会 平成27年12月19日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①特定相談支援事業の運営を行うことの件
②特定相談支援事業の運営を行うことに伴う定款変更の件
- 第6回理事会 平成27年12月19日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①湖北みみの里(仮称)の開所にむけての件
②特定相談支援事業の運営を行うことに伴う定款変更の件
- 第7回理事会 平成28年3月26日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①組織規程改正の件
②決裁規程改正の件
③経理規程改正の件
④湖北の新施設の名称の件
⑤9月30日までの設立準備室の体制の件
⑥借入の承認の件
⑦米原市との契約の件
⑧施設長の選任の件
- 第8回理事会 平成28年3月26日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①平成27年度補正予算の件
③平成28年度事業計画の件
④平成28年度予算の件

(2) 評議員会の開催

- 第1回評議員会 平成27年5月23日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①平成26年度事業報告の件
②平成26年度決算報告の件
- 第2回評議員会 平成27年12月19日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①特定相談支援事業の運営を行うことの件
②特定相談支援事業の運営を行うことに伴う定款変更の件
- 第3回評議員会 平成28年3月26日(土) 滋賀県立聴覚障害者センター
(議事) ①平成27年度補正予算の件
②平成28年度事業計画の件
③平成28年度予算の件

(3) 運営委員会

- 第1回運営委員会 平成27年5月18日(月) 滋賀県立聴覚障害者センター
第2回運営委員会 平成27年6月30日(火) 滋賀県立聴覚障害者センター

- 第3回運営委員会 平成27年8月17日(月) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第4回運営委員会 平成27年9月18日(月) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第5回運営委員会 平成27年10月7日(月) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第6回運営委員会 平成27年12月1日(月) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第7回運営委員会 平成28年2月16日(火) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第8回運営委員会 平成28年3月15日(火) 滋賀県立聴覚障害者センター

(4) 湖北みみの里(仮称)設立準備室

- 第1回会議 平成27年11月10日(火) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第2回会議 平成27年11月25日(水) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第3回会議 平成27年12月8日(火) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第4回会議 平成28年1月4日(月) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第5回会議 平成28年1月19日(火) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第6回会議 平成28年2月24日(水) 滋賀県立聴覚障害者センター
- 第7回会議 平成28年3月23日(水) 滋賀県立聴覚障害者センター

(5) 監査

- 内部監査 平成27年5月14日(木)
 - ・出席/監事、常務理事他
 - ・内容/平成26年度事業報告及び決算等
- 法人指導監査 平成27年6月30日(火)
 - ・出席/県福祉政策課、障害福祉課、常務理事他
 - ・内容/平成26年度事業報告及び決算等

② 自主事業の実施

- (1) 法人季刊誌「BIWAKO33だより」の発行
 - ①第76号 平成27年4月10日発行(1,000部)
 - ②第77号 平成27年7月10日発行(1,000部)
 - ③第78号 平成27年10月10日発行(1,000部)
 - ④第79号 平成28年1月10日発行(1,000部)
- (2) 創立20周年記念式典・レセプション・記念誌の発行
 - ・日時 2016年10月18日(土)、午後1時~4時30分
 - ・会場 近江八幡アクティ
 - ・内容 基調報告、リレートーク、
 - ・参加者 143名
- (3) 聴導犬訓練事業(別項)
- (4) 日本財団電話リレーサービス試験運用プロジェクト (別項)
- (5) 聴覚障害者相談員事業(大津市受託事業) (別項)

③ その他

- (1) 滋賀県知事に対する来年度予算要望を行いました。
 - 平成27年11月4日付けで要望書を提出しました。
 - 平成27年11月4日県障害福祉課長と懇談を行いました。
- (2) 特定非営利活動法人 全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会に出席しました。
 - ・日時 平成27年6月3日~4日
 - ・会場 山口県
 - ・出席者数 2人
- (3) 頸肩腕検診の実施
 - 平成27年10月22日(木)・23日(金)に実施。法人職員が受診しました。

日本財団電話リレーサービス試験運用プロジェクト 事業報告

○事業の目的

滋賀県の聴覚障害者総数は4054人(平成24年3月現在)、市町施策として数カ所で携帯やFAXによる中継サービス事業を実施しているが、中継サービスは市内に限られている。またICT機器を利用するような環境はまだ整備されていない現状がある。県外から転入が増加しており、そのニーズも求められている。この事業は、公益財団法人日本財団の業務委託により、電話リレーサービスを普及・定着させ、公的サービスとして制度化されることを目指し試験運用するものであり、利用登録を行った聴覚障害者または音声機能・言語機能障害者が、早急に相手先へ連絡する必要があるとき、滋賀県立聴覚障害者センターにおいてテレビ電話あるいはインターネット等のチャットにより、相手への伝言を依頼できることにより、聴覚障害者福祉の向上に資することを目的とする。

○実施場所

滋賀県立聴覚障害者センター

滋賀県草津市大路2-11-33

TEL077-561-6111 FAX077-561-6133

※ 専用ブースを設置する

○実施期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日(前年より継続)

○事業内容

あらかじめ日本財団に利用者登録を行った聴覚障害者は、テレビ電話(ビデオチャット等)を利用した手話通訳による電話リレーサービスあるいはインターネット等のチャットを利用した文字通訳による電話リレーサービスを利用して、当センターに対し早急に相手先へ伝言を依頼することができる。

なお、FAXやメールによる同時性のない通信や筆談を介したコミュニケーションは対象としない。

また、このサービスは利用者からの発信のみと対象としており、利用者への連絡・返事を取り次ぐサービスは対象としない。

○サービス提供時間

月曜から金曜の週5日、午前10時～午後6時(8時間) ※祭日・年末年始を除く

2016年1月から 土曜 休止

○サービス利用登録者

- ・ 90名（2016年3月31日現在）
- ・ 聴覚障害者

※ 利用者は日本財団に対してリレーサービス試験実施の利用に関する同意の上、アンケートに協力を行い、利用登録を行う。

○サービス利用方法

- ・ ビデオリレーサービス Skype（スカイプ）、Facetime（フェイスタイム）、LINE（ライン）
- ・ 文字リレーサービス Skype（スカイプ）、LINE（ライン）
- ・ リレーサービス専用ソフトウェアプラットフォーム 試験運用（H28. 3. 1～）

○成果

- ・ 聴覚障害者が電話というツールを使うことにより、新たな連絡手段を得ることができた。
- ・ これまでの電話通訳と違い、自宅や外出先など好きな場所から電話の依頼ができるため、聴覚障害者の社会参加の一助となった。
- ・ 2014年1月に日本財団がモニターに実施したアンケートにおいて、「今後リレーサービスを利用し続けたいか？」の設問に、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた割合が95.3%にのぼり、サービスの有用性を実感しているとの成果が表れている。

※実態利用データやアンケート詳細は日本財団ホームページに記載あり

(http://trs-nippon.jp/about_project)

- ・ 2014年度末の登録者数60名から2015年度末の登録者数90名と増加の傾向で、需要の高さが伺える。

○課題

- ・ サービス開始から2年半が経過したが、サービス自体の社会への周知が十分でなく、電話のかけ先の多くは聴覚障害者との会話に慣れていない。リレー開始時に、サービス内容を説明するが、同意を得られずリレー自体を断られたり、オペレータを第三者とみなし、『本人ではない』という理由でリレーを断られたり、不審に思われたりする事もある。サービスの内容だけでなく、手話や文字での通訳であるため若干のタイムラグがある点なども含め、電話のかけ先にサービス周知を図っていく必要がある。
- ・ 登録後一度も利用がないモニターもおり、電話の利便性を体験していない。電話という公共インフラを、より多くの聴覚障害者が体験し、公的サービスの制度化に繋げられるよう、事業のPRを積極的に行い、サービス利用を増やしていく。
- ・ リレー通訳は基本的に用件のみを伝えるサービスであり、相談などには応じられない。個人によっては、通訳上や通訳後に支援が必要だとオペレータが感じる事もあるが、モニターは全国から登録されており、受け皿がない状態である。
- ・ サービス利用時間外の依頼（着信）や、電話のかけ先から折り返し電話を依頼される事があるが、現サービス内容では対応できない。（プラットフォームの本格始動により折り返し着信を受けられる。）

大津市聴覚障害者相談員事業報告

(1) 事業目的

聴覚障害の特性を踏まえた相談支援を行うことにより、聴覚障害者の地域生活の支援を行います。

(2) 事業内容

- ①聴覚障害者に係る一般相談・支援（個別家庭訪問等） ②個別ケースに応じた関係機関との調整
③聴覚障害者に係るグループ及びコミュニティづくりとその支援 ④手話や聴覚障害者に関わる研修、啓発

(3) 設置場所

社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会

(4) 設置時間

週 5 回 9:15～18:00

(5) 事業まとめ

① 聴覚障害者に係る一般相談・支援（個別家庭訪問など）

大津市内の聴覚障害者や家族、関係機関からの相談に年間 45 件対応しました。統計は、相談者の件数です。

◇相談受付経路

本人	家族	関係機関	合計
42	3	0	45

◇相談内容

医療	人権	労働	住居	教育 保育	介護 保険	社会 生活	福祉 推進	文化 教養	計
14	0	0	3	0	9	18	1	0	45

◇相談の手段

相談派遣	来所相談	電話 FAX	家庭訪問	同行支援	計
14	3	2	25	1	45

主に社会から孤立している聴覚障害者が日常生活をする上での相談支援を行い、家庭訪問を中心に当事者のニーズを把握しながらコミュニケーションを図りました。

◇地域別生活相談件数（45 件）

堅田地域	中地域	膳所地域	瀬田地域
5	35	1	4

大津市の中地域（坂本～逢坂）居住が一番多く、生活や介護保険等に関する相談が定着しつつあります。膳所地域については、相談ニーズがないわけではなく、潜在化している聴覚障害者の悩みを引き出し、相談しやすい環境を整備していくことが大きな課題です。

② 個別ケースに応じた関係機関との調整

- (1) 病院入院している聴覚障害者のケースを病院と連携して支援を行いました。またケアマネジャーと相談機関の相談員と訪問に同行するなど対応しました。
(2) ケアマネジャーと相談機関の相談員と訪問に同行するなど対応しました。

③ 聴覚障害者に係るグループ及びコミュニティづくりとその支援

- (1) 大津市聴覚障害者相談設置事業の「おおつ・みみサロン」の開催
5月13日（水）9:30～12:00：参加者 10 名
9月9日（水）9:30～12:00：台風のため中止
11月18日（水）9:30～12:00：参加者 20 名

1月13日(水) 9:30~12:00: 参加者 12名

3月9日(水) 9:30~12:00: 参加者 18名

前半は集団学習、後半は重複聴覚障害者のためのホームヘルパー等のふくろうの協力によるレクレーションや、おしゃべり会を行いました。あわせて大津市保健師による健康相談をのべ30名実施しました。

(2) 大津市聴覚障害者相談設置事業の大津市きこえの福祉講座の開催

10月25日(日) 13:30~16:30: 参加者 10名

2月14日(日) 13:30~16:30: 参加者 10名

前半は講義・体験発表、後半は聴力検査・個別相談を行いました。初めての方が何人か参加いただきました。

(3) 大津市ろうあ福祉協会主催の「元気サロン」の参加

8月~3月毎月1回に定期的に参加し、生活上での困ったことを参加者と情報交換しました。

毎回平均20名の参加がありました。

④ 手話や聴覚障害者に関わる研修、啓発

(1) 近畿ブロック聴覚障害者相談支援従事者交流会は2016年2月23日に大阪府堺市で参加しました。近畿のろうあ相談員、設置手話通訳者との情報交換ができ、いい参考になりました。

(2) 大津市相談機関連絡会

4月、2月に相談機関の相談員との情報交換を行いました。

(3) 大津市障害者自立支援協議会(年に1回全体会も含む)

6月、8月、3月に関係機関の相談員との情報交換会を行いました。

(4) 大津市生活困窮者自立支援地域連携会議・大津市障害者自立支援協議会主催の「障害者差別のない「おおつ」を目指して」生活困窮者自立支援制度の説明・障害者差別解消法のポイントなどの課題がいくつかあることを学びました。

(5) 大津市身体障害者相談員(4名)との情報交換

8月に情報交換を行いました。

◇相談業務以外の件数

機関訪問	研修参加	計
20	3	23

⑤2016年度に向けて

潜在している聴覚障害者の悩みを掘り起こし、安心して相談ができるように、具体的に支援していきます。また大津市や関係機関との連携を図りながら聴覚障害者に対する理解啓発を取り組んでいきます。

滋賀県立聴覚障害者センター事業報告

① 滋賀県立聴覚障害者センター運営・事業

1. 施設の管理運営

滋賀県との委託契約により、滋賀県立聴覚障害者センターの管理運営を行いました。

2. 利用状況

○年間のべ利用者数

10,119 人(聴覚障害者/4,201 人=37% 聴覚障害者以外/5,918 人=63%)

○月平均利用者数

843 人

○来所総累計

個人	1,891人
団体	8,228人

○利用者内訳

団体名	人数	団体名	人数	団体名	人数
ろうあ協会	2,565	法人後援会関係	259	センター・法人事業連	4,712
中途失聴難聴者会	431	要約筆記関係	224	その他	406
手話通訳関係	813	字幕ボランティア他	35	関連団体	595
手話サークル関係	79	合 計			10,119

3. 滋賀県立聴覚障害者センターの管理運営事業

(1) 聴覚障害者等に対する生活相談の実施

○滋賀県内の聴覚障害者や家族、機関からの相談に年間253件対応しました。

○統計は、相談者の人数(機関などからの相談は1件)です。

生活相談担当2名分(きこえない相談員・きこえる相談員)の合算です。

1) 相談内容別件数

生活	労働	教育	医療	福祉	施設	人権	聴力	コミュニケーション	その他	計
98	29	2	29	5	53	7	0	7	23	253

2) 相談受付経路

相談受付経路	本人	家族・関係者	機関	合計
人数	155	15	83	253

○全体で昨年度比 140% 増となりました。(昨年 181 件)。一昨年からは約 2 倍(193% 増)となっています。

これは大津市在住の聴覚障害者からの相談やケース検討会等が増加し、大津市聴覚障害者相談事業の相談員と一緒に取り組んだことが理由です。また、件数にはあがっていませんが、センター事業の「いきいき教室」の場でも、湖北会場・湖西会場どちらも相談員が事業担当を兼務し、集団学習や健康相談の中からでてきた暮らしの悩みや相談について居住地の行政と連携し関わる取り組みも進めています。

(のべ参加者 225 名)。

○相談者の居住地は大津市が最も多く(84 件)、次いで湖南市(36 件)・栗東市(29 件)と続いています。当センターが草津市にあることから、湖南地域にある市町からの相談が多いですが、上記のいきいき教室の取り組みもあり、湖北地域(長浜市・米原市)からも 20 件ありました。また、県外の聴覚障害者関連機関から、県内に住民票のある聴覚障害者に関する相談や問い合わせ等も多かったです。聴覚障害者に配慮した施設が、滋賀県では当センターとびわこみみの里しかないことから、近隣の府県施設を利用せざるを得ない事情があることがその背景にあります。

○相談内容は生活全般に関する相談が最も多くなっています。主に、地域とのつながりが少ない聴覚障害者に対して日常生活をする上での相談支援や情報提供が多く、次に施設入所に関する相談が多いです。これはびわこみ

みの里や県外施設の利用者に関するもので、施設以外の生活面での支援やケース会議等に居住されている行政と共に関わっています。

- 相談経路ではご本人からの相談が多くなりました。訪問や来所しての相談もありますが、FAX やメールを利用した相談も多くなっています。
- 生活相談は、聴覚障害者や家族にとって日常生活における不安なことへの相談や福祉制度の情報を入手する大切な場所となっていると言えます。また、聴覚障害者に関わる事業所や機関についても聴覚障害者とより良好な関係を築くために活用が図られていると言えます。
- 全国・近畿レベルの聴覚障害者相談支援担当者等とのネットワークの構築
「近畿ブロック聴覚障害者相談支援従事者連絡会」の幹事として大阪・京都・兵庫の聴覚障害者相談支援担当者と取り組みました。今年は大阪が開催県となり、10月23日に堺市健康福祉プラザにおいて「近畿ブロック聴覚障害者相談支援従事者交流会事例検討会」を開催。相談員1名が参加し、近畿各地からは36名の参加がありました。2月23日には、同会場で「聴覚障害者へのソーシャルワーク」の研修を開催し、相談員1名が参加しました。全体では36名の参加がありました。
- 当法人のびわこみみの里が主催する「聴覚障害者の就労にかかる情報共有会」(参加機関:滋賀県立聾話学校、働き・くらし応援センターらく、びわこみみの里)に4回出席しました。ダイトロン福祉財団の助成を受けて、2月13日(土)ピアザ淡海で開催した「第1回聴覚障害者の働きやすい職場環境にかかるシンポジウム」を開催し、141名の参加がありました。

(2)手話通訳者の派遣

- 手話通訳業務担当(2名)
 - ・聴覚障害者センター利用者及び関係機関担当者等との意思疎通の支援を実施しました。(180件/設置事業含む)
 - ・手話通訳者養成事業や現任者の研修企画、運営など手話通訳関連業務を担当しました。

(3)ITサポートセンター事業(IT相談)

この事業は滋賀県より IT サロン事業の委託を受け、滋賀県立聴覚障害者センターにおいて、主に県内の聴覚障害者を対象に、ITに関する支援をしています。

	①	②
相談会場	滋賀県立聴覚障害者センター	長浜市社会福祉センター
相談日時	月曜～金曜 9時30分～18時00分	5月・7月・9月・11月・1月・3月 の第一木曜日 10時30分～16時30分

①随時相談しました。

②長浜市社会福祉センターを会場に2ヶ月に1度、湖北 IT サロンを開催しました。

[相談件数]

相談人数	420人
相談件数	859件

※相談者1人から複数の相談があった場合、内容の数を件数に加えています。

[相談内容]

- パソコンソフト:ワープロ、表計算、メール、写真加工、地図作成、年賀状、チャット、SNS(ソーシャルネットワーク)等の操作やインストール、リカバリー方法
- OS:WindowsXP、Windowsvista、Windows7 Windows8 Windows10 の操作
- 周辺機器:プリンターの動作 デジカメの使い方 USB メモリの使い方 HDD について
- 通信関係:LAN 接続、WiFi モバイル通信 無線 LAN について
- ウイルス関係:ソフトの更新、設定等
- 携帯電話、スマートフォン、タブレットの操作について
- パソコンやスマートフォンの購入について
- 暗証番号の取り扱いについて
- 契約内容について(プラン、2年契約、解約など)

[相談の傾向]

- スマートフォンやタブレットの相談が増えてきました。それに伴い、WiFi、iPhone、iPad、Android、アプリの相談もあり、IT相談の内容の幅が広がっています。
- 携帯電話の契約の内容(2年契約など)が複雑になってきているのでその相談も増えてきました。
- 近年はスマートフォンやタブレット購入の際、契約内容の仕組みや内容の情報不足のまま購入してしまったというケースも多くあります。そのため、使い方だけではなく契約に関しての情報も提供するICT講座の意義を感じています。
- 今年は特に、Windows10の無償アップグレードによるパソコン操作の相談が多く、情報があふれている中でパソコンの自己管理や設定等のリテラシーをどう形成していくのか、という聴覚障害者
- 電話リレーサービス事業の開始により、利用に関する相談や支援もありました。情報リテラシーへの課題が垣間見えました。

(4)情報機器の貸出

○情報機器貸出件数

貸出機器	法人備品	センター備品	(件数)
磁気ループ	—	69	
オーバーヘッドカメラ(OHC)	14	—	
プロジェクター	38	—	
PC	244	—	
スクリーン	27	40	
その他(※)	51	76	
合計	374	185	

(※)その他の貸出機器

センター備品／ループ延長コード・マイク・PC 接続キット 法人備品／TV・DVD 等。

(5)その他

①広報誌「センターだより」の発行

○年4回(第77号～第80号)発行。

- ・第77号…平成27年4月10日発行(1000部)
「災害時における聴覚障害者センターの役割」他
- ・第78号…平成27年7月10日発行(1000部)
「全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会報告」他
- ・第79号…平成27年10月10日発行(1000部)
「障害者差別解消法の施行に向けて、県が検討会議を開催」他
- ・第80号…平成28年1月10日発行(1000部)
「情報アクセスシビリティフォーラム開かる」他

②その他

○聴覚障害者情報ネットワーク事業の実施。

ホームページ・ブログ・メールマガジンによる情報発信

○特定非営利活動法人 全国聴覚障害者情報提供施設協議会の聴覚障害者の情報メディアに関する専門委員会へ委員選出

② 平成27年度 聴覚障害者コミュニケーション確保対策事業報告

1. 手話通訳者養成研修・派遣事業

(1) 手話通訳者養成事業

○通訳養成Ⅱは4月から11月まで、通訳養成Ⅰは6月から3月までの長期間にわたる講座となっています。講座は、どちらの講座も2つの時間帯を設定し(昼・夜コース)、いずれも聴覚障害者センターで開催しました。通訳養成Ⅱではグループ学習が必要な後半の「事例検討」や「ロールプレイ」の学習は、少人数では講座運営が困難なことから、昼コースを夜コースに統合しました。このことで昼コースの2名が夜に行われる統合コースには通えないとして辞退しました。課程別の修了者数(修了率)は次のとおりです。

	通訳養成Ⅰ	通訳養成Ⅱ (前半)	通訳養成Ⅱ (後半 統合)
昼コース	8名/9名	4名/4名	13名/13名
夜コース	7名/9名	11名/11名	
合計	15名/18名	15名/15名	13名/13名

(修了者/受講者)

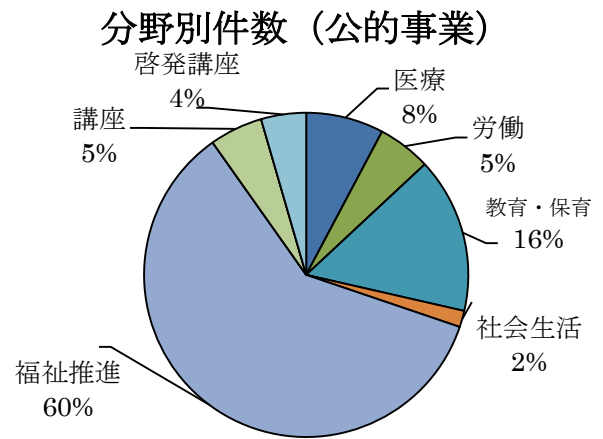
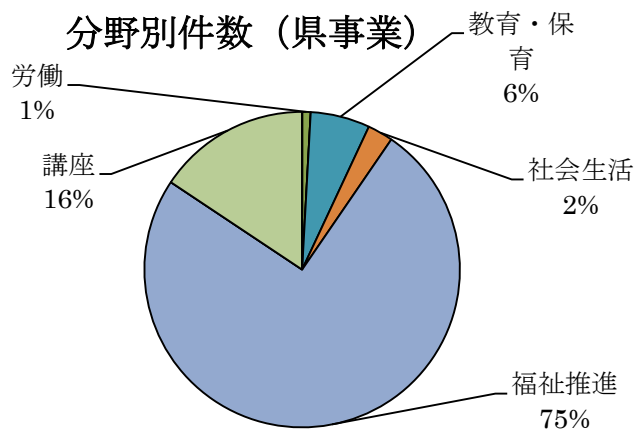
- 講座内容では、手話通訳の理念や活動に関連した知識の学習や、文章・手話の要約やポイントをまとめるなど「翻訳」の力を伸ばす学習、また、場面を想定して通訳等を行うロールプレイの演習、実際場面での通訳実習等を取り入れてきました。
- 講座の運営にあたっては、手話通訳者養成講座担当講師会議を開催し、その都度協議を行いながら指導内容の向上に努めました。
- 講師不足の解消のため講師養成講座を開催しました。
- 通訳養成Ⅰへの受講申し込みが少数でした。このことは各市町での手話奉仕員養成講座のほとんどが、入門課程開催のため、通訳者養成講座受講に該当する者が少ないことが挙げられます。当センターでは「手話通訳者をめざす人のための手話ステップアップ講座」を開催し、その終了生を手話通訳者養成講座につなげるように努めました。
- 手話通訳者全国統一試験には、同通訳養成Ⅱ課程からは10名が受験申し込みをしました。同試験には昨年度までの修了生含め22名が受験しましたが、合格者はありませんでした。(全国の合格率は18.5%)

(2) 手話通訳者派遣事業

- 登録手話通訳者数 148名(内、手話通訳士41名含む)
- 通訳内容の主訴を把握し、依頼者の要望に応じた派遣の実施に努めました。また、手話通訳者の健康にも配慮しました。
- 2015年度コミュニケーション支援担当者研修会(全国情報提供施設連絡協議会主催・7月)に参加しました。
- 手話通訳の健康対策の一環として頸肩腕検診と講習会を実施しました。
- 派遣実施状況

	県事業	公的事業	合計
派遣件数	115件	245件	360件
派遣人数	224人	505人	729人

- 県事業は、県の機関が主催する行事や、県内の聴覚障害者団体が主催または共催する広域な行事に派遣しているものです。滋賀県ろうあ協会が主催する行事や会議、滋賀県中途失聴難聴者協会、盲ろう者友の会など当事者団体の行事や会議にも派遣を行っています。
- 公的事業は、公的な機関や団体が予算化した行事や集会などへ派遣しているものです。7月、10月、11月の派遣が多くみられました。



(3) 登録手話通訳者研修会

- 登録手話通訳者を対象に、手話通訳技術や聞こえない人を取り巻く状況や制度について研鑽を行い資質向上をめざして7回開催しました。研修会は、価値・倫理、知識、技術、健康をテーマに開催し、価値・倫理では、聴覚障害者のくらしから学ぶことを重点に開催しました。技術研修では、聞き取りと読み取りをテーマに2回開催しました。また、知識では、要約筆者との合同研修も試み、70人を超える参加がありました。会場は、草津市と近江八幡市の県内2ヶ所の交通の便のよい会場で開催しました。
- 地域の課題についての意見交換を目的に、地域別懇談会を3か所で開催しました。述べ89人の参加があり、日ごろの思いや地域の課題を検討することができました。昨年度に引き続き開催した地域と、今年度初めて開催する地域があり、継続する地域では、学習を積み上げることができました。
- 手話通訳者の責務である、年1回以上の研修会への参加を、活動休止者を含むほとんどの登録通訳者が果たすことができました。スタンプカードを導入し、研修の柱であるテーマごとに参加状況がわかるように工夫しました。
- 「しゅわさろん」を5回開催し、延べ45人の参加がありました。休止中の通訳者のための手話通訳制度の学習、通訳現場での悩みなどを話しあいました。また、聴覚障害者の暮らしを語るDVDを活用し、暮らしを考えました。

	日時／会場	研修テーマ／講師	参加人数
①	4月26日（日） 草津市立サンサンホール	「手話通訳者・要約筆者がいきいきと活動するために」 滋賀医科大学社会医学講座衛生学 北原 照代氏 「リフレッシュ体操」 健康運動指導士 久木田 泉氏	45名
②	6月6日（土） 滋賀県立男女共同参画センター	「障害者差別解消法について」 滋賀県障害福祉課 藤井 孝賢氏	55名
③	7月4日（土） 滋賀県立聴覚障害者センター	「僕の歩んできた道」 岡 猪三郎氏 「ろう文化・ろう者を知ろう～社会におけるろう者手話～」 関西学院大学非常勤講師 平 英司氏	73名
④	8月1日（土） 近江八幡市総合福祉センター	「自分の手話通訳を振り返ってみよう」 滋賀県手話通訳士会	39名
⑤	8月29日（土） 滋賀県立聴覚障害者センター	「手話通訳技術－1」 日本手話通訳士協会 鈴木 唯美氏	24名

⑥	10月25日(日) 草津市立サンサンホール	「聴覚障害者のくらしに関わる私たちの役割とは」 日本手話通訳士協会 川根 紀夫氏	32名
⑦	2月27日(土) 滋賀県立聴覚障害者 センター	「読み取り通訳 ～塊でとらえよう～」 全国手話研修センター 小出 新一氏	32名

2. 手話通訳者設置事業

○手話通訳業務担当(1.5名)

- ・手話通訳業務では、専門的な内容や継続的なケースへの対応をはじめ、関係機関との連携したケースの対応等を行いました。(180件/管理運営担当職員分含む)
- ・手話通訳者派遣事業のコーディネイト担当としての業務やそれに関連する事務、また、研修会の企画、運営などを担当しました。
- ・市町との連携では、市においては設置手話通訳者等と連携しながら手話通訳を実施し、町においては、担当職員と連携を図りながら、暮らしに関わる助言等を行いました。

3. 要約筆記者養成研修・派遣事業

(1) 要約筆記者養成事業

○事業概要

[手書きコース後期課程] 4月14日～9月1日(火)17回 53時間 滋賀県立聴覚障害者センター

- ・対象者: 手書きコース前期課程修了者 16名 / 受講者 24名。
- ・前期に習得した要約筆記の基本的技術に加え実践的な学習を行いました。理論では聴覚障害者の運動史、対人援助、中途失聴者・難聴者の臨床心理、通訳者の倫理など、また技術面ではノートイクの技術を始め、場面对応、派遣現場での事例検討などから基本的な考え方を習得しました。

[パソコンコース前期課程] 9月8日～2月2日(火)17回 51時間 滋賀県立聴覚障害者センター

- ・修了者 17名 / 受講者 19名。
- ・県、市町意思疎通支援事業に対応できる技術をもった要約筆記者の養成を目標に、聴覚障害に関する基礎知識、日本語の特徴、語彙と用法、日本語表記など基礎的知識を学んだうえで、要約筆記事業の位置づけ、要約筆記の目的を理解したのちに要約筆記における表記、意図を伝える要約の実習を重ね、最終講では福祉サービスの担い手としての役割を習得しました。

(2) 指導マネジメント講座

○事業概要

指導者を対象に養成講座における指導ポイントや指導者が習得しておくべき内容の確認、また模擬講義もを行い意見交換をしました。前年度 全国要約筆記指導者養成研修受講者からの報告も実施しました。

受講者数: 共通(4月7日、5月13日)13名、手書き指導者6名、パソコン指導者5名、難聴指導者2名。

- 滋賀県から、パソコン要約筆記指導者2名が、厚生労働省委託事業 全国要約筆記 指導者養成研修を受講しました。(7月31日～8月2日、9月11日～9月13日、10月23日～25日の3回 計9日)全57時間。(全国手話研修センターで開催)
- 7月12日(日)、難聴者協会会員と登録要約筆記者の合同学習では、午前いきこえに関する最新機器の講義と使用体験を行い、共に学びました。午後は「要約筆記利用者・要約筆記事業の担い手が、共に力を発揮していけるために」と題して、全難聴要約筆記部長 宇田川芳江氏の講演で、要約筆記者のあり方、利用者の対応などを学びました。(27名参加)

(3) 要約筆記者派遣事業

○登録要約筆記者数 103名

○派遣実施状況

	県事業	公的事業	合計
派遣件数	105件	82件	187件
派遣人数	328人	245人	573人

○県派遣事業の内容別実施状況

	会議	講演	大会	社会生活	合計
派遣件数	81件	9件	11件	4件	105件
派遣人数	247人	32人	37人	12人	328人

○県事業は、障害者団体(難聴者協会、人工内耳友の会)への派遣が主要な割合を占めています。共通のコミュニケーション手段をもたない難聴者・中途失聴者同士の集会には欠かせない派遣です。実施件数は昨年度と比べ微減となりました。

○公的事業の内容別実施状況

	医療	労働	教育・保育	文化・教養	会議	講演	大会	合計
派遣件数	1件	12件	9件	5件	1件	33件	21件	82人
派遣人数	1人	31人	18人	7人	2人	113人	73人	245件

○公的事業は、講演会、シンポジウムなど、スクリーンに映し出す全体投影による要約筆記の実施がほとんどを占めます。しかし、労働や文化・教養の場面では、個人が公的な研修等に参加されて実施されることもあります。社会における要約筆記の必要性が理解されるよう利用団体を含め積極的な働きかけや取り組みの継続が必要です。

○登録者研修会の開催

	日時/会場	手法別	研修テーマ/講師/主な内容	参加人数
①	4月26日(日) 草津市立サンサンホール 10時~16時	全登録者	認定証交付式 「健康障害予防の学習会」 滋賀医科大学社会医学講座・衛生学 北原 照代氏 「リフレッシュ体操」 健康運動指導士 久木田 泉氏	34名
②	5月17日(日) 県立聴覚障害者センター 13時30分~16時	手書き	OHC実習 要約筆記の基礎知識から現場対応を考える	21名
③	6月6日(土) 県立男女共同参画センター 10時~12時	全登録者	「障害者差別解消法について」 滋賀県障害福祉課 藤井 孝賢氏	35名
④	8月23日(日) 県立聴覚障害者センター 10時~15時	全登録者	事例検討 派遣現場での問題点と対処法	42名
⑤	10月25日(日) 草津市立サンサンホール 13時30分~16時30分	全登録者	「聴覚障害者の暮らしに関わる私たちの役割とは」 日本手話通訳士協会 川根 紀夫氏	21名

⑥	1月17日(日) 県立聴覚障害者センター 13時～16時	手書き	ノートテイク実習 企業などで使われる使用頻度が高いことばの研究	24名
⑦	2月7日(日) 県立聴覚障害者センター 10時30分～16時30分	パソコン	全体投影の適切な設営のポイント 情報が受け取りやすいパソコン要約筆記	10名

[まとめ]

- 登録要約筆記者を対象に、通訳技術や聞こえない人を取り巻く状況や制度について研鑽を行い資質向上をめざして7回開催しました。価値・倫理、知識、技術、健康をテーマに開催し、県内2ヶ所で開催した制度を考える知識学習は、多くの登録者が出席し、参加しやすい環境を整えることができました。
- 手書きコースは、OHCでの各役割の位置確認などの実習を行いました。また、ノートテイクの模擬実習では、利用者と接するときの姿勢のあり方について学びました。
- パソコンコースでは、派遣現場での問題点を話し合い、対応方法を学びました。また、適切な設営のポイント確認や情報を受け取りやすくするための文章のまとめ表現方法などを学習しました。

[認定試験の実施]

- 実施日:2月21日(日) 滋賀県立聴覚障害者センターにて午後 認定試験を実施
- 受験者数:手書き 13名 パソコン 2名
- 合格者:手書き2名 パソコン1名

4. 市町域・都道府県を超える意思疎通支援者派遣調整事業

[実施内容]

- 意思疎通支援の派遣において、市町域間、都道府県域を超えての派遣が必要な時に、市町からの要請を受けて、派遣先の関係機関(団体等)との派遣調整を行いました。

5. 聴覚障害者生活訓練事業

(1)いきいき教室の開催

センターの利用が困難な湖北圏域・湖西圏域で暮らす聴覚障害者を対象に、日常生活に必要な知識や情報、生活技術などについて集団的な学習や体験、交流ができる場(いきいき教室)を開催しました。

1. 湖北地域 日程:毎月第3木曜日 10時～15時

実施日	会場	主な内容	参加者
5月21日	米原市げんきステーション	「僕の歩んできた道 自分史」 講師 岡 猪三郎氏	25名
6月18日	米原市げんきステーション	「ろうあ会館の思い出と聴覚障害者センター20年の歩み」 講師 石野 富志三郎(当センター長)	9名
7月16日	米原市げんきステーション	「手話で自由にお話しをしましょう」	11名
8月20日	米原市げんきステーション	「やってみよう! 歯とお口の健康づくり」 講師 松田 みどり氏(湖北健康福祉事務所)	15名

9月17日	県湖東合同庁舎	「究極のエコバッグ“ふろしき”の活用講座」 —ふろしきから環境問題を考えよう— 講師 丸山 郁夫氏(滋賀県地球温暖化推進員)	15名
10月15日	県湖東合同庁舎等	「彦根にまつわる歴史小話と城下町散策」 案内人:増田 美智子氏	10名
11月19日	米原市げんきステーション	「折り紙で工作をしましょう」	13名
12月17日	米原市米原公民館	いきいき教室&ふくろうミニデイサービス クリスマス会	14名
1月28日	県湖東合同庁舎	「セルフマッサージで体をぽかぽかに！」 講師 内海 優氏	12名
2月18日	米原市げんきステーション	「夢から形へ！聴覚障害者センター20年のあゆみ」 講師 石野 富志三郎(当センター長)	19名
3月17日	米原市近江母の郷コミュニティハウス イベントルーム	「歴史を手話で学んで、地域を散策しましょう」 案内人:増田 美智子氏	26名

*また、特別企画として木下大サーカス様のご招待を受け、27年9月1日に京都公演を観覧しました。
参加者 22名。

- 湖北圏域での定期開催も8年目となり、毎回湖北・湖東圏域を中心に多くの方の参加があります。参加の平均人数は16名。のべ191名の方の参加がありました。参加者の年代は、開催が平日ということもあり60歳代以上が大半を占めます。
- 午前は集団学習を実施しました。健康に関することや生活に関することなどを幅広く取り上げました。午後からは“高齢聴覚障がい者や重複聴覚障がい者のためのホームヘルパー等の会ふくろう”の協力によるレクリエーションと、毎月1回気軽に健康について相談できる場として、保健師による健康相談会を実施しました。この相談には職員も同席しており、必要に応じて病院の診察を促し、居住市町につないでいます。
- 10月と3月には彦根や米原の歴史を学ぶ学習を行い、午後からは好天の中、散策を行いました。
- 12月には、ふくろうのミニデイサービスと合同でクリスマス交流会を実施しました。

2. 湖西地域 時間:7月は11時～15時30分 11月は13時30分～15時30分

実施日	会場	主な内容	参加者
7月20日	高島市畑地域「草の根ハウス」	「高島市「畑」の棚田散策と 手話でおしゃべり交流会」	23名
11月14日	高島市観光物産プラザ	「原子力災害がもし起こったら？ —避難の方法と日頃の心構え—」 講師 高島市原子力防災対策室 職員	11名

- 湖西圏域では、いきいき教室を2回開催しました。
- 開催には、高島市と湖西総合在宅サービスセンターほろんのご協力を得ています。
7月は大津地域や湖北地域在住の聴覚障害者の参加もありました。また、11月の企画では高島市で開催している手話奉仕員養成講座の講座生にも呼びかけて、手話や聴覚障害者についての理解・啓発ができました。

(2)いきいきサロンの開催

○当センターを会場に、自由におしゃべりや交流を行う「いきいきサロン」を開催しました。日常生活の中でホッとできる場になっています。

○参加の平均人数は11名。のべ120名の方の参加がありました。

日程：毎月第1月曜日 10時～12時に開催

実施日	主な内容	参加者
5月11日	「昔の思い出を語ろう」	12名
6月1日	「書道にふれよう」 講師 東嶋 和代氏	12名
7月6日	「江州音頭にふれよう」 講師 安井 喜久松氏	14名
8月3日	「画用紙で盆踊りの飾りをつくろう」	8名
9月7日	「絵葉書をかこう。つくろう。」	8名
10月5日	「世界ろう者会議 in イスタンブールの裏話を聞こう」 講師 石野 富志三郎(当センター長)	16名
11月2日	「みんなで体をうごかしてゲームをやろう」	12名
12月7日	「いらなくなった紙袋でかご、バスケットをつくろう」	9名
1月5日	「史跡草津宿本陣を見学して、初詣にいこう」	5名
2月1日	「行ってびっくり！！アメリカのあれこれ。吉田の留学体験談」 講師 吉田 祐太氏	13名
3月7日	「ラオスってどんなところ？ラオスについて教えてもらおう」 講師 ハニタ・マイボン氏 (ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー養成事業17期生)	11名

(3)中途失聴・難聴者を対象とした暮らしの情報講座

○中途失聴・難聴者を対象に、暮らしの情報を学ぶ講座を年2回開催しました。

○開催に際しては、滋賀県中途失聴難聴者協会と人工内耳友の会 ACITA 滋賀支部 瑠璃のびわこの協力のもと、企画内容の相談や周知を図りました。

○中途失聴・難聴者を対象としていますので、情報保障として要約筆記や磁気誘導ループが付きます。講師とは事前に打ち合わせを行い、聴覚障害や要約筆記について理解を求めることで、とてもわかりやすい学習ができました。

時間 6月：10時～12時 2月：13時30分～15時30分

実施日	会場	主な内容	参加者
6月21日	滋賀県立聴覚障害者センター	「今日から始める節電・省エネ生活」 —私たちができること— 講師 本江 宗明氏(滋賀県地球温暖化防止活動推進員)	18名
2月14日	滋賀県立聴覚障害者センター	「認知症について学びましょう—その兆候と対策—」 講師 熊越 祐子氏 (県医療推進課 認知症対策係)	10名

(4)ICT講座

○スマートフォンやタブレットの普及が進んでいる中、契約の複雑さ、暗証番号の管理、複数のメーカーの管理アプリのダウンロードの有償について等操作が複雑になってきています。また、SNS(ソーシャルネットワークサービス)でのネチケットも問題になっており、その知識の普及を進めました。

(5)手話講習事業

○聴覚障害者のための手話学習会(1回実施)

一般財団法人全日本ろうあ連盟理事の嶋本恭規氏を講師に迎え、「国際手話と国際手話通訳の必要性和習得について」をテーマに学習しました。「アジア各国の文化やコミュニケーションについて、初めて聞く話ばかりで目からうろこだった」や「国際手話をもっと学びたい、国際交流がしたい」という多数の感想があり、大変好評でした。私たちの暮らし・コミュニケーションとアジアのろう者とのつながりを深めていくきっかけになりました。(参加者:31名)

○手話指導者養成講座

「手話奉仕員養成の指導力向上」と「手話通訳者養成講師養成パートⅡ」をテーマに2コースを実施しました。

- (1)「手話奉仕員養成の指導力向上」は、4月から9月までの間、毎月1回、土曜日に全5回25時間で、手話奉仕員養成入門編・基礎編を開催しました。今年度は土曜開催にしたこともあり、法人登録者も含めて30名が受講しました。手話奉仕員養成の学習者に求められる知識や技術についての講義とともに、実技指導の学習では、モニター生の協力を得て模擬講座を行いました。
- (2)「手話通訳者講師養成パートⅡ」は、昨年度に引き続き、全10回で実施しました。事例検討やロールプレイングを通じて具体的・実践的な学習を積み重ねました。(受講者:10名)

手話指導者養成(手話奉仕員養成) カリキュラム

回数	日程	曜日	時間	内容	講師
1	4月25日	土	10:00~16:00	手話奉仕員養成 改訂テキストの指導ポイント・入門編①	中西久美子 [センター職員]
2	5月30日	土	10:00~16:00	入門編②	
3	6月27日	土	10:00~16:00	入門編③・模擬指導	
4	7月18日	土	10:00~16:00	基礎編①	
5	9月5日	土	10:00~16:00	基礎編②・模擬指導・まとめ	

手話通訳者養成講師養成パートⅡ カリキュラム

回数	日程	曜日	時間	内容	講師
1	10月7日	水	13:30~16:30	手話通訳者養成Ⅱ 指導ポイント	中西久美子 [センター職員]
2	10月21日	水	13:30~16:30	場面通訳 指導方法①	
3	11月4日	水	13:30~16:30	場面通訳 指導方法②	
4	11月18日	水	13:30~16:30	場面通訳 指導方法③	
5	12月2日	水	13:30~16:30	事例検討 指導方法①	有瀧美栄氏 [手話通訳士]
6	12月16日	水	13:30~16:30	講義:事例検討・ロールプレイ	
7	1月6日	水	13:30~16:30	事例検討・ロールプレイ 指導ポイント	

8	1月20日	水	13:30～16:30	ロールプレイ 指導方法	中西久美子 [センター職員]
9	2月3日	水	13:30～16:30	講義:ことばのしくみ	西垣正展氏 [法人登録講師]
10	2月17日	水	13:30～16:30	まとめ・振り返り	中西久美子 [センター職員]

(6)聴力相談事業

1)きこえの相談

○相談実施件数:45件

○月1回、土曜日(午前10時～午後4時)。年11回実施(※)高島市内(6月)、湖南市内(12月)

○相談者の地域分布(人数)

大津市	3名	草津市	7名	守山市	1名
湖南市	4名(※)	高島市	5名(※)	東近江市	5名
甲賀市	4名	長浜市	3名	彦根市	1名
栗東市	9名	野洲市	3名	—	—

○相談者の年齢構成(人数)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
1名	1名	2名	0名	4名	2名	13名	11名	2名	38名

○主な相談内容

- ・相談件数は昨年比で7人増となりました。相談者の履歴では、初めての方(18名)と再来者(18名)とで半々でした。全体の傾向としては、70才以上の方が2/3を占めていること、若年層(10代から30代)からの相談者も少なからずおられました。
- ・相談内容の主なもの、電話の声やテレビの音が聞きとりにくい、病院では「治らないと言われた」など、聞こえについての不安や悩みについての相談や、家族、配偶者との間でのコミュニケーションがとりにくい困っているなどの相談が多く見受けられました。また、聞こえないことで失職したり、職場の人間関係に悩んでいる方、求職活動がうまくいかないなど、就労に関する悩みや相談も多くありました。
- ・聞こえに関する相談では、補聴器の購入や使い方、手帳取得や等級変更手続きに関する助言、補聴支援機器の紹介や使い方の説明などを行いました。就労に係る相談では、支援機関に関する情報提供や、聞こえのサロンへの取次ぎなどを行いました。
- ・相談者のなかには同障者との交流を望まれ、難聴者協会への入会や行事に参加される方も複数名おられました。

2)聴こえのサロン

- ・サロンでは主に、生活上の不自由やコミュニケーションの悩みなどについて悩みを持っている方に、当事者が話を聞いたり体験談を話したりアドバイスをを行う場で、きこえの相談と同じ日に実施しています。今年度は、5回、7人の方の相談を受けました。
- ・相談内容では、人口内耳や補聴支援機器に関することや、職場でのコミュニケーションの取り方、生活上の不自由についての悩みに応えました。

3)きこえの福祉講座

- ・出前講座として、難聴や聞こえに関する講義と聴力検査・相談を実施しました。6月には高島市内、12月には湖南市内の会場で開催し14名の参加がありました。うち、聴力検査は高島市(5名)、湖南市(4名)でした。参加者のなかには、「ミニ講義は役に立った」、「体験談は参考になった」との感想や、聴力検査や相談を体験して「来て良かった」との声が多数ありました。

日程	会場	参加者	聴力検査
6月20日	安曇川公民館	9名	5名
12月19日	サンライフ甲西	5名	4名

(7)聴覚障害児及び保護者サポート事業

(事業報告)

- 聴覚障害児を育てる家族(保護者)等が、子どもに対する悩みや将来への不安などを解消するため、聴覚障害に関する情報やコミュニケーション手段、保護者相互の交流の機会を設けることで、子育てや親子の豊かなコミュニケーションづくりを支援しました。
- 地域で孤立しがちな聴覚障害児やその家族等に対して、聴覚障害児相互の交流や集団活動の場を提供することにより、聴覚障害児同士の交友関係や豊かなコミュニケーションの広がり場をつくりました。

(実施内容)

①聴覚障害児を育てる家族(保護者)等を対象にした学習や交流の企画“のびのびサロン”を年6回開催しました。

日程	会場	内容	参加者
6月7日(日)	滋賀県立婦人会館 (近江小八幡市)	「聞えないこと・聞こえにくいこととは？」 講師:岡恵子氏 (兵庫県聴覚障害者情報センター職員)	21名
7月26日(日)	滋賀県立聴覚障害者センター (草津市)	「子どもたちを真ん中に父母と手をつないで」 講師:森原 都氏	19名
8月30日(日)	滋賀県立聴覚障害者センター (草津市)	「私の子育て。みんなの子育て。思うこと」 フリートーク	7名
11月8日(日)	びわこみみの里 (守山市)	「若い聞こえない人、聞こえにくい人にきこう」 講師:(一社)滋賀県ろうあ協会青年部	16名
12月6日(日)	滋賀県立聴覚障害者センター (草津市)	「聴覚障害児を育てた保護者の体験談」 講師:福岡真樹氏・緒方恵子氏	18名
3月13日(日)	滋賀県立聴覚障害者センター (草津市)	「親子ワークショップ」 講師:北川千津子氏・黒川愛紀絵氏・ 安岡まちこ氏・山口幸子氏	13名

②聴覚障害児やその家族等の余暇支援と交流を目的に“クローバークラブ”を年4回開催しました。

日程	会場	内容	参加者
7月24日(金)	滋賀県立聾話学校 (栗東市)	盆踊りワークショップ 講師:砂川会	60名
8月25日(火)	滋賀県立聴覚障害者センター (草津市)	絵本読み聞かせワークショップ 講師:吉本努氏	19名
12月20日(日)	びわこみみの里 (守山市)	みんなでクリスマス会をやる	40名
2月28日(日)	滋賀県立聴覚障害者センター (草津市)	みんなで光を使って遊ぼう	5名

6. 字幕入りビデオ制作、貸出し事業

[事業内容]

①聴覚障害者用ビデオの制作(自主制作)(7本)

- 『第17回手話ふれあいフェスティバル』 96分 手話・字幕・DVD
- 『第31回滋賀県聴覚障害者福祉大会』 60分 手話・字幕・DVD
- 『20周年記念企画 20年の歩み』 150分 手話・字幕・DVD
- 『第65回近畿ろうあ者大会 記念企画 マカオのろうあ運動と女性のろうあ運動』 150分 手話・字幕・DVD
- 『第26回近畿手話サークルフォーラム記念企画 いきいき劇団』 120分 手話・字幕・DVD
- 『つつらうら～なつはらさんのひょうたん～』 10分 手話・字幕・DVD
- 『地方の手話～安田稔氏の手話語り～』 10分 手話・字幕・DVD

②啓発・教材 DVD の字幕制作(3本)

- 「土砂・火山噴火について学ぼう びゅうびゅう ざざー」 29 分 DVD
- 「震災・津波について学ぼう ぐらぐらどーん」 32 分 DVD
- 「高血圧にやさしい食事づくり1～3」 各 45 分 DVD

③ビデオライブラリーの貸出

- ビデオ貸出件数 センターライブラリー:29 件(昨年度比9%減) 64 本 (昨年度比7%減)
- ビデオ所有本数 聴覚障害者への貸出ビデオ: 4023 本 一般貸出ビデオ: 1428 本
- 登録者数 聴覚障害者・団体登録者(481 名)一般・団体登録者(543 名)

[特徴点]

- DVD 制作に加え BD (ブルーレイディスク) の制作を行いました。
 - 聴覚障害者への情報提供のために啓発・教材 DVD の字幕制作を行いました。
 - VHS テープの貸出の減少に伴い VHS テープを整理しました。
- ④聴覚障害者情報提供施設協議会 聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会への参加。
主催:全国聴覚障害者情報提供施設協議会
日程:平成27年 11 月 11 日(水)～11 月 13 日(金)
場所:群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ
内容:IPTV、著作権改正等、ビデオクリニック全聴情協ネットワークについて
電話リレーサービス、情報アクセスにおける施設の役割について

7. 映像配信事業

- ①映像配信コンテンツ 7コンテンツ 【HPの自主制作ビデオ配信で配信】
- ②メールマガジンの発行 23 号(2015.04.01～2016.3.31) 読者数 96 部
- ③ブログの発信 105 号(2015.04.01～2016.3.31)
 - ・ブログアクセス数 10134 件(2015.04.01～2016.3.31)
 - ・ブログ動画/21 コンテンツ【ブログで配信】 再生回数/3,256 回

8. 手話通訳士養成講座開催事業

- 手話通訳技能認定試験(手話通訳士試験)の受験者を対象に、基礎理論学習と実技学習を実施し、それぞれ3名と8名の手話通訳者が受講しました。学習内容は試験対策を重視し、個別指導を強化するなど、講座の充実に努めました。実技学習では今年度よりイオンターネットを活用し、自宅学習を充実させました。
- 手話通訳技能認定試験(手話通訳士試験)には受講者8名が受験しましたが、合格者はありませんでした。
[手話通訳士試験の全国の合格率は 2.1%]

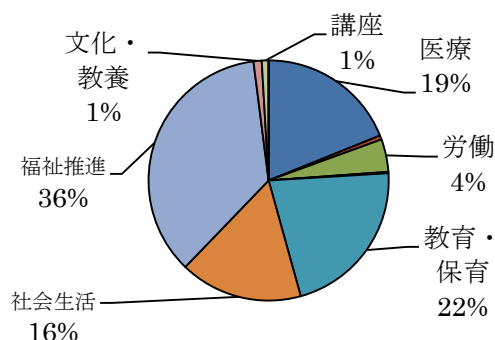
③ 市町委託事業

1. 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

(1) 手話通訳者派遣事業

- 市町事業は、市町コミュニケーション支援事業の委託を受けた派遣です。市町の独自派遣事業や専任通訳者の複数配置機関の増加により、委託件数は減少方向にあります。
- 分野別では医療、教育、社会生活が多くを占め、聴覚障害者個人の生活に密着した依頼が特徴です。また、市町主催の講演会など福祉推進分野も多くあります。
- 教育分野は、増加の傾向にあります。

分野別件数（市町事業）



	医療	人権	労働	住居	教育	社会生活	福祉推進	文化	講座	放送	啓発講座	合計
件数	103	3	24	1	118	90	195	6	5	0	0	545
人数	103	3	29	1	184	133	381	9	10	0	0	853

(2) 要約筆記者派遣事業

- 市町コミュニケーション支援事業の派遣実績件数は200件(439人)で前年度より21件増となりました。要約筆記がつくことで、学習や交流の場へ積極的に参加する難聴者が増えてきました。就労、地域生活、医療など幅が広がる良い傾向になっています。しかし、派遣実績が全くない市町もあり、窓口での利用者への働きかけ、また啓発が必要であると思われます。
- 市町派遣事業の内容別件数・人数

[個人対象の派遣]

	医療	労働	教育・保育	社会生活	文化・教養	小計
派遣件数	49	4	17	34	32	136
派遣人数	50	4	34	71	64	223

[不特定多数対象(講演・大会等)の派遣]

	会議	講演	大会	小計	合計
派遣件数	16	25	23	64	200
派遣人数	46	91	79	216	439

2. 手話講座(市町の委託事業)

- 米原市手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期間]平成27年5月12日から平成27年3月22日、毎週火曜日(午後7時00分～9時00分)
 - [講座数]全29講座
 - [受講者]受講者10名(修了者9名)
- 彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期間]平成27年6月4日から平成28年3月10日、毎週木曜日(午後7時00分～9時00分)
 - [講座数]全24講座
 - [受講者]受講者24名(修了者17名)
- 東近江市・日野町・竜王町手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期間]平成27年5月19日から平成27年11月10日、毎週火曜日(午後7時00分～9時00分)
 - [講座数]全23講座
 - [受講者]受講者33名(修了者21名)

- 近江八幡市手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期 間]平成 27 年 5 月 21 日から平成 28 年 1 月 21 日、毎週木曜日(午前 10 時 00 分～12 時 00 分)
 - [講座数]全 23 講座
 - [受講者]受講者 20 名(修了者 18 名)
- 野洲市・守山市手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期 間]平成 27 年 5 月 14 日から平成 27 年 11 月 5 日、毎週木曜日(午後 7 時 00 分～9 時 00 分)
 - [講座数]全 23 講座
 - [受講者]受講者 22 名(修了者 19 名)
- 甲賀市手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期 間]平成 27 年 5 月 26 日から平成 27 年 12 月 8 日、毎週火曜日(午後 7 時 00 分～9 時 00 分)
 - [講座数]全 23 講座
 - [受講者]受講者 27 名(修了者 21 名)
- 湖南市手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期 間]平成 27 年 5 月 14 日から平成 27 年 12 月 3 日、毎週木曜日(午後 6 時 45 分～8 時 45 分)
 - [講座数]全 23 講座
 - [受講者]受講者 17 名(修了者 10 名)
- 草津市手話講座(手話奉仕員養成講座基礎編)
 - [期 間]平成 27 年 5 月 29 日から平成 28 年 1 月 29 日、毎週金曜日(午後 7 時 00 分～9 時 00 分)
 - [講座数]全 23 講座
 - [受講者]受講者 23 名(修了者 10 名)
- 高島市市手話講座(手話奉仕員養成講座入門編)
 - [期 間]平成 27 年 8 月 6 日から平成 27 年 12 月 22 日、毎週木曜日(午前 10 時 00 分～12 時 00 分)
 - [講座数]全 20 講座
 - [受講者]受講者 13 名(修了者 10 名)

④ 自主事業

1. 手話啓発講座(単発・連続講座)

- 依頼団体(機関)と実施数及び受講対象者(単発)

依頼機関	件数	対象者	人数
学 校	8	学 生	697
行 政	2	職 員	123
企 業	2	会 社 員	115

(連続)

依頼機関	件数	回数	対象者	人数
行政・団体	5	3～15	職員等	108

- 障害者差別解消法の施行に向けて、法の趣旨を理解するとともに、徐々に聴覚障害者への理解が広がっています。単発講座の依頼件数は昨年度より増加しています。連続講座は、手話通訳者養成課程に繋ぐためのステップアップ講座の数が増加しています。
- 大津や湖南ブロックの消防職員に対して聴覚障害者の理解を広めるとともに、現場活動又は通常業務等の窓口でのコミュニケーションを習得しました。滋賀県内の消防署全てで取り組んでいただけるよう働きかけが必要です。
- 滋賀県教育委員会が主催する「学校支援メニュー」には、手話等啓発事業の一環として、定着しており、教員を対象とした「学校支援メニューフェア」(ピアザ淡海:8月3日)にはブースを出展しました。手話及び聴覚障害についての理解と関心を深めることを目的にして、聴覚障害者の暮らしを知ってもらうための DVD の視聴を行いました。
- 滋賀県生涯学習課の主催で、企業・団体・行政等の機関が連携して開催された「しが☆まなび☆発見!」大津会場(ピアザ淡海:8月19日)と米原会場(文化産業交流会館:8月7日)に参加しました。
子どもが理解しやすいように、内容を工夫して啓発を行いました。2会場 121 名(子ども・保護者)
- 講師現任研修を3回実施しました。
- 20 名が講師として新規登録を行いました。

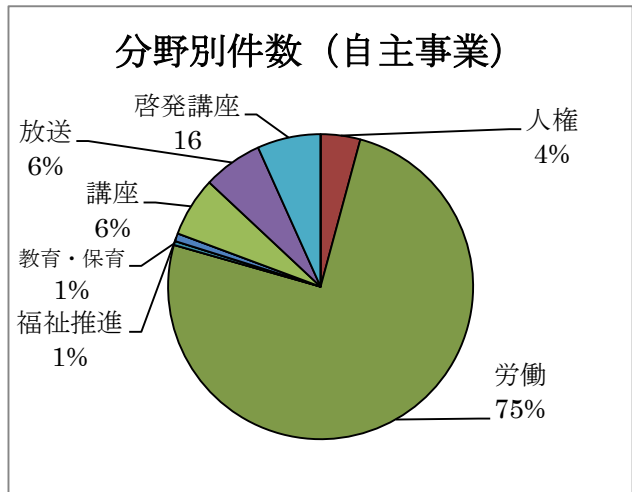
2. 要約筆記の啓発

- 龍谷大学(瀬田学舎)ノートテイク講習会 4月15日(水)、同大学のノートテイク希望の学生等15名対象。聴覚障害の不自由さへの理解、話しことばを筆記で伝えること、要約技術についての考え方と実習、周囲の協力について指導しました。

3. 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

(1)手話通訳者派遣事業

- 自主事業は、企業や高等教育、放送など専門分野へ派遣しているものです。
- 件数は238件で昨年と120%の増加です。労働分野は企業などの研修への派遣が主で、前年度同様に大半を占めています。企業研修は、長時間、数日間に亘る内容が多く、1日の派遣人数が多くなるのが特徴です。企業のニーズにこたえられるよう、打ち合わせを十分に行っています。
- 公的機関に雇用された聴覚障害者の研修、会議への派遣も増加しています。
- 地域のケーブルTV番組の手話挿入に協力しました。年間12回24人を派遣しました。県広報番組にも協力しています。



	医療	人権	労働	住居	教育 保育	社会 生活	福祉 推進	文化 教養	講座	放送	啓発 講座	合計
件数	0	10	179	0	1	0	2	0	15	15	16	238
人数	0	10	467	0	2	0	4	0	17	30	17	547

(2)要約筆記者派遣事業

- 企業への派遣実施は25件、50人でした。毎月の定例会議、聴覚障害の社員への手書きノートテイクおよびパソコンノートテイクによる派遣を実施いたしました。
- 現在、要約筆記を利用する企業は少ないですが、今後障害者差別解消法の合理的配慮により、利用できる環境が広がることを期待します。

4. 「手話タイム・プラスワン」(県広報)協力事業

- びわ湖放送において県政ニュースを手話と字幕で伝える番組「手話タイム・プラスワン」(年間20回)への制作協力を行いました。
- ①手話キャスター、聴覚障害者アシスタント、健聴者アシスタントを、各回1名ずつ派遣しました。
- ②番組内「聴覚障害者センターからのお知らせ」においては、行事案内のほか、「きこえの相談」の周知に努めました。聴覚障害理解に役立つ時事情報、手話通訳者や要約筆記者等の聴覚障害者の支援者を増やすための講座開催情報を提供するなど、聴覚障害者の暮らしの豊かさを深められるような内容を企画しました。

5. 聴覚障害者用映像制作事業

- 聴覚障害者が様々な情報にアクセスできるよう、行政機関や団体などからの依頼に応じて手話や字幕挿入や、聴覚障害者のための映像制作を行いました。
- CS障害者専用放送「目で聴くテレビ」放送の番組を2つ制作しました。
- 甲賀市行政情報番組「きらめきあいこうか手話ダイジェスト」の手話挿入を行いました。
- 聴覚障害者福祉大会における情報保障のための撮影を行いました。

6. 手話通訳者・要約筆記者の健康管理事業

(事業の目的)

聴覚障害者の社会参加を促進する「手話通訳者・要約筆記者派遣事業」の担い手である登録手話通訳者、要約筆記者が健康で活動が続けられるように、同派遣事業の実施主体である滋賀県・市 町・当法人が健康管理に関連した事業を実施するもの。

(実施内容)

①健康管理委員会の設置

登録活動者の健康管理や予防対策を目的とした同事業が円滑に行われるよう、関係団体の委員で構成する「健康管理委員会」を設置し、検診の運営及び検診結果や課題に対する検討などを行いました。

②頸肩腕検診の実施

登録手話通訳者 130 名、要約筆記者 78 名(活動休止者を除く全員)を対象に一次検診(スクリーニング)、二次検診(特殊検診)を実施しました。一次検診の問診票の回収率は、手話通訳者が 83%(昨年 85%)、要約筆記者が 88%(同 79%)で、要約筆記者が手話通訳者を上回り、どちらも 8 割以上の回収率となりました。これらは団体からの呼びかけ等の取り組みも合わせての成果と言えます。二次検診は、草津市内に会場を設け、2日間実施しました。昨年度に引き続き、大阪社会医学研究所(検診機関)による問診(血压測定、身長、体重測定含む)医師による診察、関係団体の協力による「相談ブース」の設置を行いました。

③検診結果を生かす取り組み

検診の結果を踏まえた派遣業務を行うと共に、業務軽減が必要な B3 以上の対象者には聞き取り等の面談を行ったり(今年度は対象者なし)、派遣事業の直営市に対しては、重複登録者(県と市)の健康管理に生かすため、情報の共有化を図りました。また、今年 10 回目となることから 10 年間のまとめを行いました。

④衛生教育の実施

登録者が健康で活動を続けるため、健康に関する研修会を開催しました。また、検診結果や登録者の健康の取り組みや課題等を関係者に広く啓発する意味で、聴覚障害者関係団体や行政など幅広く呼びかけ、健康管理講習会(平成 28 年 4 月 30 日)を開催しました。(参加者 102 名)